

# 町長日記



## タスキがつかないだ、由良の底力

2月8日「和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝」が開催されました。当日は今季一番の冷え込みで、風も強い厳しい状況でしたが、小中学生の選手たちが由良町の代表として、紀州路を全力で駆け抜けました。

当日、沿道やテレビの前で応援してくださいました町民の皆さんも多かったことでしょう。私も会場で選手たちの力走を目の当たりにし、胸が熱くなる思いでした。一本のタスキを懸命につなごうとするその背中には、自分自身の記録だけでなく、共に汗を流した仲間たちの想い、そして故郷・由良町への誇りが宿っているように見えました。

思うように走れず悔しい思いをした選手もいるかもしれませんが、しかし、この大会のために、寒い冬の朝も、学校終わりの疲れた体でも、ひたむきに練習に打ち込んできたそのプロセスこそが、何事にも代えがたい財産です。

また、選手たちを一番近くで支えてこられた保護者の皆さん、熱心にご指導いただいた指導者の皆さん、そして温かい声援を送ってくださった町民の皆さんに、心から感謝申し上げます。皆さんの応援が、選手たちの大きな原動力となりました。

駅伝は一人では走れません。誰かがつなぎ、誰かが待っているからこそ成立する競技です。これは町づくりも同じではないでしょうか。

今回の駅伝で選手たちが見せてくれた「あきらめない心」と「きずな」を大切に、私も町長として、次の世代へより良い由良町をしっかりとつないでいく決意を新たにしました。選手の皆様、本当にお疲れ様！感動をありがとうございます。

由良町長 山名 実